

## 令和4年度 第1回 摂津市立男女共同参画センター運営委員会 要点録

日 時：令和4年7月11日(月)14時～15時15分  
場 所：摂津市立男女共同参画センター 交流室  
出 席 者：摂津市立男女共同参画センター運営委員6名  
事 務 局：人権女性政策課4名  
案 件：(1)令和3年度事業報告について  
(2)令和4年度事業計画について  
(3)その他

配布資料：・令和3年度 事業報告書  
・令和4年度 摂津市立男女共同参画センター事業計画  
・令和4年度 男女共同参画市民企画協同事業チャレンジ企画事業決定について  
・ウィズせつつ7月セミナーガイド  
・ウィズ通信 vol.31  
・男女共同参画推進団体の活動紹介

### 案件(1)令和3年度事業報告について

#### 【利用状況・事業内容】

- ・交流室の利用状況：令和3年度の交流室利用件数合計は344件。4月25日～6月20日まで新型コロナウイルスの影響により休室、また、8月にも感染者の増加傾向による自粛の傾向により、落ち込んだと思われる。9月以降は団体活動も再開され、利用も例年並みとなった。
- ・子どもの一時保育：子どもの一時保育は、延べ66人で前年度とほぼ同数とニーズがあるため、引き続き継続する。
- ・講座ごとに計画のどのプランに該当するか示し、「女性人材育成」・「男女共同参画」・「女性問題」・「男性問題」、「多様な生き方」・「こころとからだ」・「チャレンジ支援」・「就労支援」・「子育て支援」・「女性に対する暴力防止」・「防災」・「出前講座」を実施した。また、活動交流支援として「チャレンジ企画」、「ジャンプ企画」、「ふらっと企画」、「推進団体交流会」、「ウィズせつつフェスタ・体験・発表・展示」を実施した。

#### 【アンケート結果】

- ・受講者の男女比は、女性が87%、男性が12%と令和2年度と比較し男性の参加が約8%減少しているが、子育て中の男性を対象とした「パパを楽しむ！前向き子育て」や「明るい子育てのためにアンガーマネジメントを学ぼう」、また、「プロに学ぶインド・スパイス料理レシピ」、「オトコのための介護のある暮らし」は、男性の参加者が比較的多く見受けられた。
- ・年齢層は、10代から40代は27%、60歳以上の方が半数以上を占める結果となる。そのような中でも、

「創業支援セミナー」、「男性応援セミナー」については、40代以下の参加が比較的多くあった。

- ・参加回数は、初めてが微増しているが、2回以上が5割強と、リピーターも多い。内容・講師ともに「よかった」「どちらかといえばよかった」が9割以上を占め、満足度は高い。

#### 【団体の活動支援】

- ・男女共同参画推進団体の交流会を7月に団体相互の交流を深める場として実施。
- ・令和4年1月に男女共同参画推進団体登録説明会を行い、審査を経て3月に令和4年度の登録団体を決定した。

#### 【情報】

- ・令和4年3月末現在の蔵書数は3,682冊。視聴覚資料は165本。
- ・セミナーガイドを毎月発行し、講座や企画募集、相談日など案内。センターの情報誌「ウィズ通信」は、男女共同参画に関するニュースや話題、国際女性デーに関することや団体活動の紹介をテーマにし、6月と3月の年2回発行。
- ・図書の貸出数は前年比30%の減少。4/25～6/20の間、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ウィズせつつを閉館としていたことが大きく影響。新規図書登録者数は前年比27%の減少。

#### 【相談】

- ・女性のための相談事業として、ウィズせつつ女性のための相談室を開設。
- ・DVを含む女性のための様々な悩みについて、相談員が電話や面談を行う総合相談、フェミニストカウンセラーが心の悩みの相談に応じる面接相談(カウンセリング)と、女性弁護士が女性の立場から法律上の問題に応じる法律相談の3形態で相談を実施。
- ・4月25日からの緊急事態宣言発出に伴うコミュニティプラザ休館により、講座等の事業は全て中止となったが、女性のための相談室は、夜間相談も含め通常通りの対応とした。
- ・総合相談件数は576件と前年比約13%減。DV相談は前年比22%減。
- ・相談の内容は、「精神問題」が最も多く全体の約3割、「人間関係その他」が約15%、「夫等暴力」が約14%である。電話による相談は前年比約24%減となったが、面接相談、法律相談は、予約制で利用枠が決められていることから、前年実績と大きな乖離は見られなかった。
- ・相談事業の予防・啓発として中学校へのデートDVに関する出前講座を実施した。中学校3校13クラ

ス 427 人の生徒が参加した。

#### 【質疑】

(委員) コロナ禍においても精力的に講座を実施していることがわかった。受講生のアンケートの満足度も高いが運営側、発信側として、こうすれば良かったという点はあるか。

(事務局) 男性だけ呼び込むことにこれまで苦勞を感じていたが、一部の講座で男性と一緒に参加する女性を可とした結果、子どもの参加もあり 10 代から 70 代の幅広い世代に受講してもらえた。また、防災関連の講座等は東日本大震災の発災からしばらくは、東北に特化した講座等を実施していたが、実際に摂津市で災害が発生したらどのような対応、子育て世代の家庭はどう動けばよいかなど、少しずつ切り口を変え講座を実施している。

(委員) それぞれの事業は実際にやってみて様々な課題等が出てくるので、改善していく必要がある。

(委員) 中学校のデート DV 出前講座について、生徒の反応はどのようなものか。

(事務局) 生徒は熱心に受講し、生徒の感想は「知っておいてよかった。」「初めて聞いたが身近なこと。」「SNS は注意しないと。」と生徒には良い時間となった。先生には、出前講座の前に事前授業を行っていただいているため、先生にとっても改めてデート DV について考える機会となっている。

(事務局) 学校ではなかなか性教育に取り組めない。その点、この出前講座では性教育の部分を取り入れている。また、講座を先生が行うのではなく、外部のセンター相談員が実施することで生徒が真剣に聞いてくれる。相談に関しては相談があれば応じる事後の対応であるが、一方でこの出前講座は生徒が大きくなってからしか成果が出ないが、暴力ではない部分、相手に気持ちを伝えるといったことを学習できる。

(委員) 令和 3 年度は 3 校であるが、なかなか広がっていない印象があるが。

(事務局) 令和 4 年度は中学校全校での実施を見据え、養護部会で案内した。また、単年度ではなく継続して実施し、高校でも毎年実施できるように広げていきたい。

(委員) 学校側は実施したいところであるが、日程が合わないのか。

(事務局) 日程は多少影響があるかと思うが、内容や思いが伝われば実施できている。また、現時点で昨年度実施がなかった第二中学校から申込みがあり 11 月に実施予定。

#### 案件(2)令和 4 年度事業計画について

##### 【講座開催事業】

・ウィズせつつカレッジ 2022 は、「子どもたちの未来を育む大人のチカラ～じぶんにまる、みんなにまる～」をテーマに全 10 回を予定。第 1 講目は、入学記念の公開講座として、6 月 25 日に認定 NPO 法人 Homedoor 理事長の川口加奈さんを講師にお招きし講演会を実施した。7 月 1 日から本格スタートしているカレッジは、その後審議会等への参画やさまざまな場面で活躍していただけるよう女性人材登録制度を案内し、名簿への登録を呼びかけた。

・「男女共同参画」：9 月 10 日にドイツのメルケル元首相が達成された偉業を改めて確認することで、女性

の政治参画の重要性を認識するとともに、世界に目を向け世界の在り方を考えるセミナーを開催予定。

・「多様な生き方」：4月26日にウィズ de シネマとして「マーガレット・サッチャー 鉄の女の涙」を上映。8月5日には、「SDGs コトハジメ 途上国の可能性 誰も泣かないモノづくり～マザーハウスに学ぶ～」と題した講座を開催予定。

・「こころとからだ」：「ウィズほっとサロン」として4講座開催を予定しており、そのうち5月29日に「こころとからだが楽になるツボ押し養生と漢方」、7月2日に「家族が楽に片づけられる ラク家事整理術」を開催した。

・「就労支援」：7月23日に「働くゼミ 書類探しのイライラ解消 スマホで簡単！ラクラク書類管理術」と題した講座を実施予定。

・「子育て支援」の『0・1・2歳児とパパの絵 de あそび、/子どももおとなも自由に楽しむ！絵本ひろば』は、昨年は母親と子どもを対象として実施していたものを、今年度は父親優先で企画。「ハピママの楽育ひろば」、「絵本ひろば」は新規参加者も増加し、子育て世代の交流の場として今年度も継続実施する。また、昨年度好評であった「パパを楽しむ前向き子育て」も継続する。

・今年度、新たな取り組みとして、6月20日に交流室を読書スペースとして開放し、情報室の本をゆっくり楽しんでいただける空間を提供する「ウィズ de Book～ゆったり読書タイム～」を実施した。この事業は、センター事業のさらなる周知、センター所蔵図書貸し出しの促進、さらに一時保育の実施により、子育て中の保護者が「ひとり読書の時間」を楽しめる空間を提供することを目的としている。今後は保育時間を延長し、9月以降に隔月の開催を予定している。

#### 【活動・交流支援事業】

・チャレンジ企画として3団体から応募があり、一部内容を再考するなどの条件つきで全て採用した。採用された企画については、センターと調整を行い今年度中に実施する。また、ジャンプ企画は5企画、ふらっと企画は2企画で今後も申請があれば随時実施する。

・男女共同参画推進団体による交流会は7月14日に実施予定で、今年度は社会福祉法人大阪ボランティア協会の常任理事・事務局長の永井美佳さんをお招きし、「団体がもっと元気になる『グループ運営のコツ』を学ぶ」をテーマに講義していただく。

・ウィズせつつフェスタは、昨年度は新型コロナウイルスの影響も鑑み開催期間を1週間とし、分散させての開催であったが、今年度は「ウィズせつつフェスタ 2023 3days」と状況を見ながら3日間に凝縮して少し賑やかさを演出し、実施する方向で検討している。

#### 【情報収集・提供事業】

・6月20日～26日の男女共同参画週間に合わせ、男女共同参画週間啓発パネル展をコミュニティプラザエントランスで実施した。

・11月は「虐待等防止キャンペーン期間」の取り組みとして、DV/虐待等防止啓発パネル展を市役所とコミュニティプラザで、また、同月にウィズギャラリー作品展、2月末には国際女性デーのパネル展の実施を予定している。

#### 【女性問題相談事業】

・将来、深刻な状況に陥らないために予防の観点が重要であると考えており、特に若年層へのDV予防啓発として、市内中学校等への出前講座を引き続き実施する。

#### 【質疑】

(委員) 近年SDGsの考えが主流になる中、センターでもSDGsと題しての講座を企画しているが、今後どのように展開していくのか。

(事務局) 市としても各分野・施策とSDGsのゴールと関連付けていることから、各講座についても紐付け等を考えていく。

(事務局) センターの事業計画に該当するかどうかは明確ではないが、女性問題相談事業の中で昨年の年度途中から市として要対協が機能するよう取り組まないとならないことから、要対協の会議に女性の視点での見立て、発言をすべく人権女性政策課職員と相談員とが出席している。

(委員) 非常に深刻な出来事であったが、母がつながっているなら大丈夫だという思い込みが背景にあったのなら、この視点はアンコンシャスバイアスである。問題意識を持ちつつ様々な講座を企画していると思うが、ただ単に父や母が子育てではなく、周りも含めて皆で子育てを行っていくというような要素も必要かと思う。

(事務局) 運営委員会から話が少し逸れるかも知れませんが、要対協は子どもの虐待についての会議であるため、出席者は子どもの視点で考え、虐待行為を行う父・母共に加害者という視点でとらえられ、その部分をしっかりとすれば良いと考えがちである。この会議に人権女性政策課が参加することにより、例えば母が子に行う虐待行為の根底は何か、経済的余力がないから虐待行為やストレスが溜まっている、母がしっかりすれば良いだけでなく背景が何かを意見が言えるようになり、様々な視点を持った会議になったのではと思う。

(委員) 違う視点、ジェンダーの視点、今まで入ってなかったと思う。ことは深刻であると、どう意識するかが重要である。

(事務局) 要対協の会議での個々の案件について、学校側はどのタイミングで通告してきたかなど、学校間で問題意識に差があると感じる。デートDVの啓発は生徒に対して行っているが、学校教職員にもデートDVは暴力だけではないといったことも含め、生徒の家庭の部分に繋がってきていると感じる部分もある。また、連携が重要であると言われるが、要対協に参加することにより、関係性が構築され、職員間でも相談しやすいといった要素が生まれた。

(委員) 学校でのデート DV 出前講座は第三者が講義をするので生徒が聞くとあったが、要対協でも同じことが言えると思う。市の子ども担当部署・学校の先生など、各担当でしっかり対応しているが、担当の視点となる。人権女性政策課が会議に入ればどうなのか、ジェンダーの視点はどうなのか、どうサポートしていくのかなど積極的に介入していくこと、取り組んでいくことが重要であると思う。

(事務局) 要対協の案件に挙げられている事例で、人権女性政策課に相談している人はごくわずかであるとわかった。家庭児童相談課がセンターに相談を促してもなかなか繋がらないといったことを、改めて感じる。

(委員) 他市の審議会に関わっているが、例えば学校で貧困のことについて実態把握しようアンケートを実施するが、家庭に持ち帰ってアンケートの回答となるケースがある。家庭での回答となると実態が見えにくくなるため、審議会で議論となったが全員で反対した。審議会には市民も参加しており、市民の声であることから、学校側にも目的等を理解してもらえた。デート DV 出前講座の全校実施も当運営委員会が出された意見として、学校側にプッシュするのも一つの方法であると思う。

(事務局) アンケートは配布と回収が目的ではなく、実態の把握が目的である。同様にデート DV 出前講座もしっかりと学校側に目的を伝えることが重要だと改めて認識した。

(委員) 男女共同参画の分野で世界の女性リーダーの講座を実施予定であるが、中高生にも受講してほしいが定員を増加できないか。

(事務局) 会場がセンター交流室であり、新型コロナウイルスの感染状況も含めて、増員は困難である。

### 案件(3)その他

- ・第2回運営委員会の開催について  
令和5年2月頃の予定